

J215a

V339 Del = Nova Delphini 2013 の光赤外線大学間連携 ToO 観測

関口和寛, 神戸栄治, 柳澤顕史, 福井暁彦, 泉浦秀行, 黒田大介 (国立天文台), 橋本修 (ぐんま天文台), 小野里宏樹, 板由房 (東北大学), 原川紘季 (東京工業大学), 本田敏志, 高橋隼, 新井彰, 高木悠平, 森鼻久美子 (兵庫県立大学), 伊藤亮介, 秋田谷洋, 森谷友由希, 川端弘治, 河口賢至, 高木勝俊, 森健彰, 胡田奈那, 田中康之 (広島大学), 坂田脩一郎, 林田健三, 井上幹一郎 (鹿児島大学), 前原裕之 (東京大学), 奥村真一郎 (日本スペースガード協会), 中尾光, 今井正堯 (北海道大学), 源川貴大, 潮田和俊, 大朝由美子 (埼玉大学), 大島誠人, 笹田真人 (京都大学), 永山貴宏 (名古屋大学), ほか
光赤外線大学間連携 OISTER チーム一同

光赤外線大学間連携 OISTER チームは、板垣公一氏が 2013 年 8 月 14.584 日 (UT) に 6.8 等級の天体として発見した Nova Delphini 2013 = V339 Del を、日本時間 8 月 15 日から ToO (Target of Opportunity) 観測として、国立天文台岡山天体物理観測所 188cm 望遠鏡クーデ焦点 HIDES (High Dispersion Echelle Spectrograph) 同力セグレン焦点近赤外撮像・分光装置 (ISLE)、県立ぐんま天文台 150cm 望遠鏡ナスミス焦点 (f/12.2) GAOES (Gunma Astronomical Observatory Echelle Spectrograph) 等の光赤外線大学間連携参加各大学機関の望遠鏡を使って同年 12 月初旬まで観測した。今学会では特に、可視高分散分光観測により明らかになった鉄 (Fe-peak) および s-process 原子の吸収線 (Transient Heavy Element Absorption, THEA) の、新星爆発後の進化について考察する。これらの吸収線は、新星システム外周部に新星爆発前から存在していた伴星表面からのガスが降着円盤外部から放出されたとするモデルが V339 Del に対しても適応するかを検証する予定である。